

2020,1,25

猪の鼻ヶ岳の準備に行きました

2月2日のイベント、猪の鼻ヶ岳の準備に行きました。コースタイム・危険度調査・眺望/自然観察ポイント・アクセス状況などの調査に行きました。気持ち良い里山散歩です。近くに、音羽城跡があり、こちらにも散策してきました。時間が許せばご案内したく思っています。みなさまのご参加をお待ちしています。

◆**コースの状況**：往復コースの予定でしたが、雪もなく良いお天気の予報なので、周回コースをご案内します。道標もなく、いろんなどころから登っておられるようで、コース選びに時間がかかりました。頂上から少し戻って、南東方向の尾根コースを下山します。自然林の気持ち良いコースです。



ミツバタの蕾：群生している 麓はヒノキの植林 しばらくすると、自然林が広がる 樹間からの眺望



猪の鼻ヶ岳山頂：三等三角点 山頂は結構広い 林道からの猪の鼻ヶ岳の雄姿

◆歴史：音羽城跡

史蹟 音羽城跡

室町時代の末、現在の日野町小谷にその居を構えていた蒲生氏は、音羽のこの地に城を築いた。蒲生秀郷の時、あ左前に、宝殿敷を背後にした要害の地にあつた城として知られていた。

明應五年（一四九六）と文龜三年（一五〇二）敵を迎え撃って大勝をおさめているが、大永二年（一五二二）から翌三年にかけての蒲生家同族間の争いには、若き当主秀紀を中心とする五百の兵が八月に及ぶ籠城をするという悲惨な戦いの末、大永三年二月開城し、直ちに壽世蒲生高郷の援軍佐々木勢によって城は取り壊され、以後は日野川ダムほとりの中野城へと城は移りこぼされた。

出曲輪（城の外囲い）跡地からは、音羽付近を一望に収めることができ、その下に壘を築いて攻撃を防いだ。南丸跡地近くに城中の井戸や穴があったが、このあたりは戦後の開拓で原形を留めていない。

音羽城に関する蒲生家の系譜は、次のとおりである。

系譜 一 秀行 一 秀紀 一 定秀の孫が会津若松九十二万七千石の大老になった蒲生氏郷である。



音羽城址

中世の日野地方の領主蒲生貞秀によって、応仁の大乱期に築城された要害堅固な典型的山岳城である。背後に宝殿ヶ岳を控え前面に急峻な崖地と日野川を配したこの城では、明應5年(1496)と文龜3年(1503)の激しい合戦が二度起り、いずれも城兵の蒲生氏が勝つが、大永2年(1522)に起った蒲生氏同族間の合戦で音羽城は落城し、50数年の運命と共に城は廃城となった。城址内に数々の遺蹟が散在する。

日野観光協会・西大路公民館



天正10年(1582)の本能寺の変の際には、安土城の二の丸御番衆であった蒲生賢秀は、妻子を日野に保護しています。ドラマなどにも良く出てきます。